

平成23年度 京都府立京都八幡高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)年度末評価

学校経営方針		昨年度の成果と課題		学校経営の重点	
<p>授業を大切に、生徒の能力を3年間で最大限に伸ばして、進路を保障する。そのために、生徒に基礎・基本を徹底し個性を伸ばすことにより、知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力までを含めた、幅広い学力を育む活動を推進する。</p> <p>また、基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性・社会性を育む活動を推進する。</p> <p>そうした実践を通して南北キャンパスの絆を強め、教職員の資質向上に努めるとともに、信頼され、期待される学校づくりを推進する。</p>		<p>京都八幡高校となって4年が経過した。学校評価システムや授業評価を改善し、UD推進計画に基づき、多様な学力の生徒に対して学習システムのUD化を推進してきたが、平成22年度においては原級留置や中途退学が増加した。今後もより一層、学習システムのUD化を図り、生徒の能力を最大限に伸ばしていく取組みにより、原級留置や中途退学の防止につなげなければならない。</p> <p>京都八幡高校のコンセプトである「科学・共生・感動」の具現化を図る取組みを着実に進展させるとともに、分掌や教科毎の取組みを学校全体の視点から点検し、重点目標の達成につなげていく必要がある。また、これまで以上に南北キャンパスの分掌や教科の積極的な連携・協働が求められ、普通科総合選択制と専門学科の充実に向けて、保護者や地域と緊密な連携を図りながら教育の質を高め、地域に開かれ、信頼され、期待される学校づくりを、一層推進する必要がある。</p>		<p>あらゆる教育活動を通して、「科学・共生・感動」の3つのコンセプトの具現化を図るとともに、生徒及び保護者に信頼され、地域から期待される、学校づくりを推進するため、以下のことを本年度の重点課題とする。</p> <p>① 学習システムのUD化と授業を大切にす取組の充実 ② 保護者連携と基本的な生活習慣の確立による社会的自立心の育成 ③ 学校行事、部活動、ボランティア活動等の充実による社会性の涵養 ④ 「プロジェクト8」による小論文指導や言語に関わる教育活動の充実 ⑤ 専門学科の充実とヒューマン・エリアが求める生徒像の確立 ⑥ 八幡支援学校との日常的な交流と授業交流を通じた校種間連携の推進 ⑦ キャンパス間・分掌間の相互理解と協働体制の確立</p>	

分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	具体的方策	中間	年度末	総合	成果と課題
組織・運営	組織・運営	学校運営	南北キャンパスの絆を強める。	南北キャンパス合同の部長会議・職員会議を実施する。 部長会・職員会議の各分掌の提案・連絡事項における南北キャンパス分掌間の事前の共通理解を徹底する。	3	3	3	各取組・行事における南北キャンパスの関係分掌間において、事前・事後の調整・確認等が円滑に実施された。
		外部との連携	家庭・地域社会との連携を推進する。	PTA役員会議・学校評議員会などを通して保護者・地域社会の意見等を集約する。 PTA役員会議・学校評議員会などで集約した保護者・地域社会の意見等を、教職員に周知する。	3	3		
UD推進部	UD教育	UD学習	ユニバーサルデザイン(UD)の姿勢をもたせる。	各学年の目標に基づきUD学習を進める。 全学年を対象に「UDつうしん」を発行する。 本校のUDについての取組を紹介する。	3	3	3	年度末アンケートでは「人がもつさまざまな個性のちがいを認めあえる」の項目について、肯定率が88%となっている。
教務部	組織・運営	生徒異動	原級留置・中途退学を減らす。	考査前や学期末に成績不振者に対する補充を設定する。 授業状況調査を実施する。 HR出席簿への転記週間を設定する。	3	3		
		教育課程	新教育課程の案を作成する。	教育課程に関する教務部研修会を開催する。 カリキュラム会議を開催する。	3	3		
生徒指導部	学校行事	文化祭・体育祭	文化祭・学校祭を充実させる。	文化祭の実施要項を5月末までに提示する。 文化委員会を開催する。 体育委員会を開催する。	3	3	3	評価指標の肯定率が昨年度より5ポイント上昇した。開校5周年に係わりPTAの協力によるミスト機導入や記念タオルと国民文化祭PRのためのペットボトル水の配布を行い好評を得た。
	生徒指導	生徒指導	学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせる環境をつくる。	携帯電話・自転車のマナー指導を実施する。 校内巡回を実施する。 自転車交通安全のHR連絡を行う。	3	3		
進路指導部	進路希望の実現	就職・進学希望の実現	希望進路区分へ進ませる。	3年生向け進路補習を実施する。	3	3	3	進路希望(区分)の実現率は2月末で87.9%である。諸方策の成果がみられるが、看護系については難化傾向にあるため、低学年時から行う指導の工夫が課題である。
				3年生向け進路ガイダンス(進学・就職)を実施する。	3	3		
看護・医療系希望生徒に対するガイダンスを実施する。	3	3						
保健部	保健管理	環境美化	基本的な規範意識と公共心、社会性を向上させる。	大掃除を実施する。	3	3	3	計画通りに大掃除等を実施することができた。学校における美化週間においてはゴミの分別について注意を喚起することができた。
				ゴミの分別状況を全体に返し、分別の徹底をはかる。	3	3		
「保健便り」に、環境美化に関する情報を掲載する。	3	3						
第1学年部	学習指導	学力の育成	基礎学力の定着を図る。	学び直しの時間を設定する。	3	2	3	具体的方策については着実に実施できた。
				授業中の生徒の学習状況を学年会で検討する。	3	3		
授業規律についてSHRで確認する。	3	3						
HR活動	HR・学年集団の育成	京都八幡高校に入学してよかったと実感させる。	教室の整理整頓を徹底する。 個人面談を実施する。 学年行事を実施する。	3	3	3	肯定率は南キャンパス70%、北キャンパスは65%であった。来年度も地道な取組を継続する。	
				3	3			
3	3							
第2学年部	学習指導	学力の育成	学校全体に学習する雰囲気を作る。	教室の整理・整頓、落書き防止を徹底する。 教科担当者への授業状況調査の結果をうけての指導を行う。 成績不振・欠課過多の抑止に向けての個別面談を行う。	3	3	3	毎日の教室巡回、面談期間や夏季休業期間を活用しての面談を実施し、学習に対する意識を高めることができた。
				3	3			
3	3							
進路指導	進路意識の向上	進路希望未定者数を減少させる。	オープンキャンパスへの参加や模試受験を推進する。 インターンシップを推進する。 未定生徒との担任面談を実施する。	3	3	3	進学希望、就職希望、進路希望未定の生徒それぞれに対して担任を中心に個別の面談を重ねている。進路学習とも併せて、卒業後の進路を生徒が考え決定する機会を設定する。	
				3	3			
3	3							
第3学年部	進路指導	進路実現	進路を決めて卒業させる。	個別面談による進路指導を行う。 学年部による面接指導を実施する。 「総合的な学習の時間」や「LHR」において進路別学習を実施する。	3	3	3	個別面談や進路別学習会等を実施し、生徒への進路決定意識の喚起ができていた。進路先が確定した生徒は93.6%(2月調査)に達している。目標については達成できた。
				3	3			
3	3							
事務部	施設・設備管理	生徒の事故	日常点検を実施し、施設・設備に起因する生徒の事故を防ぐ。	校舎内外の日常点検を実施する。 点検結果のとりまとめを実施する。 改修等を必要とする事項を教育庁所管課に報告・依頼する。	3	3	3	方策を着実に実行することにより目標を達成することができた。耐震化工事が進行することから、今後とも施設の日常点検を行うことが必要である。
				3	3			
3	3							
専門学科	魅力ある学科づくり	学習指導	専門学科生としての学習意欲を高める。	授業の開始時と終了時の礼と挨拶を徹底する。 学科研修会を開催し、情報交換等を実施し研修する。	3	3	3	評価指標については、専門学科全体で61%に達したことから目標は達成できた。来年度以降も専門学科生徒としての意欲向上を図る。
				3	3			
3	3							

分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	具体的方策	中間	年度末	総合	成果と課題	
教 科	国語科(北)	学習指導	授業規律の確立	授業規律を確保し、基本的な学習態度を身に付けさせる。	授業開始時に机上の整理や環境整備、机の整列などの指導をする。	3	3	3	評価指標については、3. 52となっており目標を達成することができた。
					ベル着や私語などに対する指導を徹底する。	3	3		
					授業態度や課題提出などを平常点として評価の対象とする。	3	3		
	地歴 公民科(北)	検定	漢字検定受検	資格取得による進路決定の機会を増やす。	漢字検定の案内を行う。	3	3	2	検定の案内は滞りなく行うことができたが、今年度の合格率は目標には届かなかった。次年度は検定合格に向けての指導を充実させる。
					漢字検定の対策講座を開く。	2	3		
	数学科(北)	授業	基礎学力	基礎学力の定着を図るために、意欲的に授業に取り組ませる。	定期考査前に講義ノートやプリントの点検をする。	3	3	3	授業についてのアンケート結果から、生徒の意欲についてはある程度引き出すことができていると考えている。生徒の興味、関心を引き出せるように次年度も授業の工夫を図る。
					定期考査前に対策問題を作成し提示する。	3	3		
					考査前補充を充実させる。	3	3		
	保健 体育科(北)	授業	授業規律の確保	学習習慣を定着させるために、規律ある授業を確保する。	授業に取り組む姿勢を平常点として評価に加える。	3	3	3	授業についてのアンケート結果から、学習習慣の定着には課題が残る。新年度に向けて、指導方法の工夫について教科内で検討を行う。
					定期的にノート点検を実施する。	3	3		
					ベル着や私語などに対する指導を行う。	3	3		
	理科(北)	授業	指導力の向上	数学科の教員が主体性を持って研修を行う。	中学校や他校での公開授業等に参加し、本校での指導のあり方を検討する。	3	3	3	教科内での研修会については計画的に実施できており、数学科の教員間で教科指導についての意見交流が行われた。次年度も継続して研修を実施する。
					複素数について理解を深める。	3	3		
					研究授業を行い、各自の授業方法について交流を図る。	3	3		
	保健 体育科(北)	授業	学習環境	学校全体に学習する雰囲気をつくる。	授業開始前に教科書、ノート、資料集を机上に準備することを呼びかける。	3	3	3	授業開始前の呼びかけによって、授業の規律確保には繋がっている。学習内容に対する理解を促進するために、授業における教具について工夫をしている。
					観察や実験を多く実施する。	3	2		
芸術科(北)	授業	生徒の意識の向上	生徒を授業に向かわせ、確実な学力定着を図る授業作りを検討する。	生徒の興味や関心の高まる授業作りのため、長期休業中に野外活動等の研修へ参加する。	3	3	3	授業についてのアンケート結果から、授業に対する生徒の意識を把握することができた。学習内容の定着を目指して、生徒への声かけを増やして意欲の喚起につなげたい。	
				授業に関する報告・検討会を開催する。	3	3			
				小テストを定期的に行う。	3	3			
英語科(北)	授業	授業規律の確保	生徒の積極的な授業への参加を増やす。	ベル着を励行する。	2	3	3	授業を見学する生徒の人数は昨年比べて減少している。緊張感を持続させるための取組を通じて、安易に見学しないように工夫をしたい。	
				体育の授業内容の工夫をする。	3	3			
家庭科(北)	授業	意欲的に取り組む姿勢を高める。	必要物を確認し、不要物への指導を徹底する。	科目のねらいを大切にしながら、生徒が意欲的に取り組める教材を工夫する。	3	3	3	授業に臨む姿勢を確立させ、芸術科の学習に対する意欲の向上を図る。	
					3	3			
情報科(北)	授業	授業に対する取り組み状況	意欲的に授業に取り組ませ、基礎学力を伸ばす。	ADエリア、UNエリア発展講座において小テストを定期的実施し、知識と学習習慣の定着を図る。	3	3	3	教科における取組については計画通り実施できている。新年度においても、取組を継続し学力を伸ばすための指導内容の充実を図る。	
				UNエリア標準講座において補助プリントを作成し、授業内容の理解を深める。	3	3			
				学習ノートを提出させ、各生徒の学習状況をチェックする。	3	3			
商業科(北)	授業	授業規律の確保	授業に取り組む姿勢を向上させる。	不要物の撤去を指導する。	3	3	3	授業中における不要物等についての指導を継続して行っており、生徒の姿勢について改善が見られる。今後とも教員側の一致した指導が必要である。	
				ノート点検の回数を増やしこまめに評価する。	3	3			
				実験・実習の回数を増やす。	3	3			
商業科(北)	授業	授業に対する取り組み状況	授業に興味・関心を持つ。	授業開始時に、上履きをつま先を揃えて所定の場所に入れているか確認する。	3	3	3	授業についてのアンケート結果から、生徒の多くが意欲的に授業に取り組んでいると考えている。	
				授業時に、不要物の持ち込み禁止の連絡を行う。	3	3			
				授業中に私語をする生徒に対して厳しく指導する。	3	3			
商業科(北)	授業	指導方法の工夫	商業に関する科目の学力向上を図る。	授業時に課題の提出を確認する。	3	3	3	課題提出について、その期限を守って提出することが定着してきている。学習内容の定着についても良好な状態であると考えている。	
商業科(北)	検定・資格	検定受検・資格取得	資格取得による進路決定の機会を増やす。	簿記実務検定・ワープロ実務検定・情報処理検定・秘書検定の案内を行う。	3	3	3	ワープロ検定や情報処理検定について、その受検を推奨しており、生徒にとって一つの目標として機能している。	

分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	具体的方策	中間	年度末	総合	成果と課題	
教 科	国語科(南)	学習指導	授業規律の 確立	授業規律を確保し、基本的な学習態度 を身につけさせる。	授業開始の挨拶をし、机上の整理を促し、授業環境を整える。	3	3	3	計画通り方策を実施することができており、授業規律の確保を通じて学習内容の 定着や学習姿勢の確立を図る。
					国語総合・古典のノート点検を行う。	3	3		
	地歴 公民科(南)	授業	基礎学力の 向上	授業規律を確保し、基本的な学習態度 を養う。	教科書、資料集など必要物の確認、不要物への注意を徹底する。	3	3	3	方策については、計画通り実施出来た。新年度も学習意欲の向上につながるよう 授業についての工夫を図る。
					ベル着や私語に対する指導を徹底する。	3	3		
					定期考査前に講義ノートやプリントの点検をする。	3	3		
	数学科(南)	授業	基礎学力の 向上	学習に取り組む姿勢を高める。	始業チャイムと同時に立礼させる。	3	3	3	始業前の着席指導を継続して行い、教室内の学習環境について向上が見られ た。次年度以降も方策を確実に実施したい。
					身だしなみを整えさせ、授業規律を守らせる。	3	3		
	理科(南)	授業	基礎学力の 向上	学習に前向きに取り組む姿勢を高め る。	考査前学習会を実施する。	3	3	3	アンケート結果を踏まえ課題の残る部分について次年度においても指導を重点的 に行う。考査前の学習会を実施し生徒に対して意欲の喚起を図ることができた。
					実験・実習・VTR視聴ごとに課題を期限内に提出させる。	3	3		
					考査ごとにノートをチェックする。	3	3		
	保健 体育科(南)	授業	学習意欲の 向上	授業開始時の意欲を高める。	体育の授業開始時における生徒の準備状況进行评估する。	2	3	3	各学年共に時間を守ることへの意識は高く、多くの生徒が急いで準備をする姿が 見られた。新年度も継続して指導を行う。
					保健の授業開始時における生徒の準備状況进行评估する。	3	3		
芸術科(南)	学習指導	生徒の意識 の向上	意欲的に取り組む姿勢を高める。	ベル着や私語の指導を行う。	3	3	3	授業に臨む基本的姿勢を引き続いて指導し、学習課題に取り組む積極的な姿勢 を育てることが必要である。	
				必要物を確認し、不要物への指導を行う。	3	3			
英語科(南)	検定・資格	プロジェクト8 を利用した英 語力の向上	英検指導をととして英語力の向上を図 る。	英検対策の学習会を実施する。	3	3	3	英語検定に対する生徒の意識を高めることが課題であり、新年度に向けて取組を 充実させる。	
				定期考査ごとにノートを提出させる。	3	3			
家庭科(南)	学習指導	授業規律の 確立	授業規律を確立し、授業に対して興 味・関心・意欲を向上させる。	授業開始時にあいさつを行い、授業に対する心構えを高める。	3	3	3	目標については概ね達成できた。授業規律の確保のためには、年間を通して日常 的な指導が大切であり、生徒の意欲や関心を向上させるための工夫が必要であ る。	
				調理実習時に事前予告の「お知らせプリント」を配布し、準備物の徹底を図る。	3	3			
情報科(南)	授業	基礎学力の 向上	学習に取り組む姿勢を高める。	私語・実習態度等に対して指導をする。	3	3	3	授業についてのアンケート結果において評価の上昇がみられた。	
				情報関連のニュースの紹介をする。	3	3			
福祉科(南)	授業	学習意欲の 向上	学習に前向きに取り組む姿勢を高め る。	定期考査ごとにノートを提出させる。	3	3	3	各学年とも比較的落ちついた雰囲気の中で授業が行われている。正しい服装で学 習に前向きに取り組むことができるように指導を継続する。	
				身だしなみを整えさせ、授業開始時に挨拶をさせる。	3	3			
	検定・試験	検定受検・資 格取得	介護福祉士国家試験の合格を目指 す。	国家試験対策補習の無断欠席者に対して指導を行う。	3	3	3	国家試験の対策講座を充実させることができた。	